

2021年度 推薦啓発ビデオ一覧

多可町隣保館(ふれあいセンター)

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
高齢者	ここから歩き始める (2015)	34分	日本における平均寿命の大幅な伸びや少子化などを背景として、社会の高齢化が急速に進んでいます。それに伴い、認知症高齢者も大きな社会問題となっています。高齢者を家族や地域でどのように支えていくか、また、高齢者自身の意欲や能力をどのように生かしていくかを考えることは、これからの私たちの大きな課題です。 認知症の親を持つ主人公とその家族の中で繰り広げられる介護をめぐる葛藤ときずなの紡ぎなおしを描くことで、高齢者が人間として誇りを持って生きていく上で大切なことについて、家族や地域の視点を通して考えるきっかけとなるドラマ教材です。
超高齢化社会とひきこもり (8050問題)	カンパニユラの夢 (2020)	36分	近年、主に「80代」の高齢の親が「50代」のひきこもりが長期化した子を支えている家庭が増加しています。「8050問題」とは、こうした家庭が地域社会との接点を失い、親子ともども生活が困窮するなどの課題を抱え、将来への展望が見いだせない超高齢化社会における新たな社会問題のことです。背景には、現在の超高齢化社会における「家族の孤立」が地域に潜在化していることがあります。 急速に高齢化が進む今、8050問題は誰にでも起こりうることと認識し、地域の人々がひきこもりなどの悩みを共有し偏見をなくすとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現をめざす人間啓発ドラマです。
同和問題	12年後の決断 (2021)	28分	「私の喋り方、イントネーション、ヘンでしょ？ 出身を隠したかったからなんです。部落差別の恐怖は、物言いまで変えてしまった」「これまで部落差別体験は4度あります。21歳のときの話は必ずします。今の私があるのは、その体験があったからです」「人権問題を他人事じゃなく自分事として捉え、子どもたちにも伝えてくれたら有り難いです。私の差別体験も意味があったのかなと…」第12巻「若い力は今」から12年。その間、綾さんは結婚し、生活環境も激変した。二人のこどもに部落についてどう伝えるべきか、母としての不安、揺れ動く気持ちを赤裸々に語る。心を蝕むリアルな部落差別が、ここにある。11年連れ添う夫、敬愛する義父、信頼する先輩、見守る母親…綾さんを取り巻く人々の含蓄ある言葉の数々が深く温かく胸に響く。
	「部落の心を伝えたい」ビデオシリーズ第21巻 結婚差別400事例 ～弘瀬喜代～ (2013)	28分	「通婚率90%以上」、そんな統計から、部落差別は解消したかのような誤った認識が広がっている。数字の奥にある厳しく悲しい現実を知る弘瀬喜代さんの講演は激しく心を打つ。400事例に学ぶ、結婚差別の相談に奔走する中でつかんだ人間の真実。それは応援する人が必ず現れること。そして、人は変わる。他人事ではなく、自らの問題として考えてほしい。弘瀬さんの切実な願いは若い世代にゆっくり着実にしみこんでいく。
	「部落の心を伝えたい」ビデオシリーズ第31巻 ありのまま生きる ～坂田愛梨・瑠梨～ (2017)	24分	寝た子を起こす。「寝た子を起こすな」で始まり「寝た子を起こす」で終わる部落問題。それを間近に見聞きしてきた姉妹は、「寝た子を起こす」活動を無理せず軽やかに積み上げる。母から娘へ、そして子へ。母から受け継ぐ「ありのまま生きる」姿が幼い頃から姉妹の自尊感情を育んだ。たくさん仲間をつくり、つながりを結び、プラスの出会いを重ねていく。幼子にも部落にルーツをもつ「私」を伝えていく。
	「部落の心を伝えたい」ビデオシリーズ番外編 「恥ずかしい」のはどちらだ 差別する側、される側 ～江嶋修作～ (2018)	27分	稚拙な同和教育を批判するときに誰もが一度は口にするタテマエ・タテジマ・タニンゴト。創唱したのは、社会学者の江嶋修作さんです。40年に亘り同和教育の変革を訴え続け、意識革命の端緒を開くとともに、多くの青年たちも育てた。今、江嶋さんが提唱するのは「人権 テイク・ルート(根を張る)」。各地に「人権の根を張って生きる」個人をつなぐ取り組みです。部落差別解消推進法の施行後の新しい解放教育とは？

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
同和問題	「部落の心を伝えたい」 ビデオシリーズ第32巻 ネット差別を許すな！ ～川口泰司～ (2019)	28分	(形を変えた部落差別) ネット上で部落/部落出身者が晒される。 無法地帯化するネット上の差別の現実を 差別ハガキを送られた当事者自らが語る。 (「寝た子」はネットで起こされる) 無知・無理解・無関心な人ほど危ない! ネット社会の危険性と構造を解き明かし、行政、企業、個人でのネット対策を提起。 (ピーカーの泥) 人間の心の奥底にある偏見、差別。「ピーカーの底に沈殿した泥」に例え 取り除く人権教育の必要性を訴える。
	ともに生きる私たちの未来～部落差別解消推進法がめざすもの～ (2017)	38分	この作品では部落差別解消推進法ができた背景の現実社会とネット上で起きている新たな差別実態を明らかにする一方で、被差別部落にルーツを持つことに誇りと自信を持って活動する若者たちを紹介しています。 この2つの視点から、ネット社会の中で新たな局面を迎えている「部落問題」について考え、「ともに生きる社会」をどう実現していくのか、私たち一人ひとりに問いかけていきます。
	あなたに伝えたいこと ～インターネット時代における同和問題～ (2014)	36分	同和問題は、様々な対策の結果、生活環境などハード面の改善は進みましたが、結婚差別や身元調査など意識の面では依然として課題が残されています。また、インターネットには差別的な書き込みやネット依存など陰の部分があります。 この物語の主人公は、ごく普通の若い女性です。彼女は、自分の祖母や母が同和問題でつらい思いをしてきたことを知ります。彼女の結婚話を中心に、恋人や友人、家族などとの関わりを通して、この問題が決して他人事ではないこと、ネット上の情報だけではなく実際に人とふれあう中で、お互いを正しく知り合うことが同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを、明るい希望とともに伝えます。
	・同和問題～過去からの証言、未来への提言 ・同和問題 未来に向けて (2014)	61分 19分	この作品は、我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当て、人権教育・啓発担当者が学ぶべき同和問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を分かりやすく簡潔にまとめた「同和問題 ～過去からの証言、未来への提言～」(61分)と一般市民を対象とした、「同和問題 未来に向けて」(19分)の2つの映像作品から成り立っています。
	シリーズ 映像でみる人権の歴史 (2014) 第1巻 東山文化を支えた「差別された人々」 第2巻 江戸時代の身分制度と差別された人々	1巻 16分 2巻 15分	【第1巻】世界遺産である銀閣寺や龍安寺の庭園などをつくったのは、実は「河原者」であり、そういった偉大な芸術家であった河原者が、なぜ差別されたのでしょうか。また、差別されてきた河原者を、その芸術面の力で率直に評価し重用した将軍足利義政など、山水河原者に活躍の場を与えた人々の存在も描き、こうした差別しなかった人たちの姿も強調し、世界に誇る文化遺産は、差別された人々と差別することなく正しく評価した人たちによって築かれたことを、学ぶ教材です。 【第2巻】最近の教科書では、「士農工商」という表現がなくなり、部落は社会の下ではなく、「ほかに」「別に」と表す教科書が増えています。この作品では、身分制度は江戸時代に突然つくられたわけではなく、中世に始まった身分が固定され、江戸時代に「制度化」されたことを、分かりやすく解説しました。また、部落差別の学習を通じて、「イジメ」の問題を考えることや、「非人」の存在を現在の「ホームレスの方々の人権」と関連させ発展的に学習できる工夫を加え、江戸時代の身分制度が決して現在の社会問題と無関係ではないことを示唆しています。
	映像でみる人権の歴史 (2015) 第3巻 近代医学の基礎を築いた人々 第4巻 明治維新と賤民廃止令	3巻 17分 4巻 18分	【第3巻】江戸時代中期、山脇東洋が日本初の医学解剖を実施し、その後杉田玄白は、『ターヘル・アナトミア』を手にとり人体解剖を見学しました。そのとき実際に解剖して見せたのは差別されてきた人々でした。第3巻では、大切な命と向き合い、生きてきた人々の姿が描かれています。 【第4巻】幕末、長州藩では差別された人々が「維新団」として活躍し江戸幕府が倒されました。しかし、成立した明治政府が出した「布告」は税を取ることが真の目的であり、加えて壬申戸籍の差別的な記載を許可したことなどで、差別はなくなりませんでした。最新の研究を基に公文書を読み解き、部落差別が近代になっても存続した構造を丁寧に描いています。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
同和問題	映像でみる人権の歴史 (2017) 第5巻 渋染一揆を闘いぬいた人々 第6巻 日本国憲法と部落差別	5巻 18分 6巻 17分	【第5巻】幕末、岡山藩では、身分差別を徹底するため、被差別身分の人々に、「渋染か藍染以外の着物の着用を禁止する」という厳しい御触れを出します。この「差別」を認めるわけにはいかないと藩内53ヶ村の人々は、のちに「渋染一揆」と呼ばれる大規模な抵抗運動を起こしました。人々は、整然とした闘いでこの「御触書き」を撤回させました。人としての尊厳をかけ、知恵と力を合わせて戦った人々から、いま学ぶべきことは何かを問いかけます。 【第6巻】戦後、憲法が制定された経緯を検証し、男女同権による民主選挙によって選出された国会議員たちが、主体的に憲法制定に取り組んだことを描きます。さらに、人権尊重の精神がどのようにして憲法に書き込まれたか、とくに第14条の条文に「部落差別の禁止」が明確に記載されたことも明らかにしました。だれひとりとして「差別されない」と明記された「日本国憲法」こそが、真の「解放令」であり、「差別を黙って見過ごしてはならない」ことを、いま改めて憲法の意義とともに問いかけます。
	映像でみる人権の歴史 (2020) 第7巻 水平社を立ちあげた人々～人間は尊敬すべきものだ～ 第8巻 ひとと皮革(かわ)の歴史	7巻 17分 8巻 19分	【第7巻】1922年3月3日、京都の岡崎公会堂に差別されてきた人々が集まり「人間は、差別するものでなく、尊敬すべきものだ」と宣言し、「全国水平社」を結成しました。日本の人権の歴史を大きく変えた水平社創立の背景や、創立大会の様子、そこに参加した人々の想いを、現地や関係者を訪ねて取材し、明らかにしました。自分たちの力で差別をなくそうと立ち上がった人々の姿から学ぶことにより、「差別」や「いじめ」を根絶するため、いま何をなすべきか問いかけます 【第8巻】ひとは、生き物の命を奪い、食べなければ生きていけません。しかし、米づくりが盛んになると、宗教の力を借りて、動物の命を奪うことを残酷とする考えが日本にも広まり始めました。肉の仕事などに関わる人を差別してきた背景には、こうした考えがあり、やがて、そこから部落差別が生まれるのでした。「死は穢れている」という差別につながる考え方も、ほかならぬニカワでできた墨の文字や絵の助けを借りて、社会へ広がっていきました。このDVDでは、皮革製品の製造過程を取材した貴重な映像を通してこうした矛盾を示し、部落差別の愚かさや「いのち」の大切さを考えさせる教材としました。
	そんなの気にしない ～同和問題～ (2016)	17分	この作品は、二人の友だち同士が主人公です。タイトルの「そんなの気にしない」は、親友に自分が同和地区出身だということを告白したときに返ってきた言葉です。告白したほうは、相手にもっと知って欲しかった。告白されたほうは相手が、そのままの相手でも変わらないことを伝えたかった。しかし、その一言がきっかけで二人はすれ違っていきます。「気にしない」という言葉の底には、そのことをマイナスに見る意識があるのかもしれない。私たちが普段なにげなく使う言葉や態度のなかには、相手を傷つけるものがあるかもしれない。そして、壁を乗り越えるのもまた、相手を信じる力だということを伝えます。
インター ネット	いわれなき誹謗中傷との闘い スマイリーキクチと考えるインターネットにおける人権	20分	1999年、お笑い芸人として活躍するスマイリーキクチさんが、実は凶悪事件の犯人であるという根拠のないデマがネット上で発信された。はじめは、いずれ収まるだろうと放置していたが、次第に誹謗中傷は拡大し、殺人予告まで届くようになる。仕事にも支障をきたしはじめたので。スマイリーさんは警察に相談するが、解決には至らなかった。 その後、誹謗中傷はさらに拡大し、個人の方ではどうすることもできなくなる。弁護士やボランティア団体、警察にも相談するが、解決の糸口がみつからない。そんな中、ある刑事との出会いが事態を大きく変えていく。その刑事は、刑事告発を約束し、捜査を進め、その結果、19名の加害者が検挙された。それでも誹謗中傷はなくなり、今現在も脅迫メールなどが届く。スマイリーさんに、この事件をめぐる解説をしていただき、ネットの誹謗中傷と、私たちがどう向き合っていくか、考えるための内容となっています。
	インターネットと人権～ 加害者にも被害者にも ならないために～ (2017)	30分	インターネットは私たちの生活を豊かにし、欠かすことのできないものになっています。一方で、インターネットを悪用した人権侵害も数多く発生しています。特にネットいじめや子どもたちをターゲットにした犯罪が大きな社会問題になっています。またインターネットに関する知識や意識が十分でない中学生や高校生は被害者になるだけではなく、意図せず加害者になることも少なくありません。この作品は主に中高生やその保護者、教職員を対象に、インターネットを利用する上での危険性や安全な利用法について、わかりやすく解説しています。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
ジェンダー (男女の人権)	映像で学ぶ ジェンダー入門 ①男らしさ/女らしさ (2021)	40分	男らしさ、女らしさといった考え方は人の無意識に存在しています。そうした考え方はしばしばステレオタイプ化し、多くの弊害をもたらします。 「スイーツ男子」といった言葉の裏にどのような性別の固定観念が潜んでいるのか、また、教育の場においてそうした固定観念はどのような影響をもたらしているのか、ジェンダー・ステレオタイプを取り巻く多くの事例について考えます。 また、フェミニズムやバックラッシュといったジェンダーを考える上で重要な事柄についても学びながら、様々な事例から身近なところにひそむ性別役割規範について考え、現代の社会における課題について考えます。
	映像で学ぶ ジェンダー入門 ②多様な「性」 (2021)	30分	ひと言に「性」と言ってもそのあり方は非常に多様です。日本の社会において、人は「男」か「女」いずれかの性別に割り振られ生活することが前提となっていますが、本当に性別とは男女の2つしかないのでしょうか。この巻では性自認、性役割、性的指向といったジェンダー学における「性」の考え方について学び、性のあり方の多様性について様々な事例をもとに考えます。また、LGBTをはじめとした性的マイノリティの存在、その当事者の抱える生きにくさなどの様々な問題についても触れ、多様な「性」を認める社会を作るうえで直面する多くの課題について考えます。
	映像で学ぶ ジェンダー入門 ③結婚・家庭における ジェンダー (2021)	38分	結婚、家族のあり方について、以前に比べて近年は比較的多様なあり方が認められてきているといえるかもしれません。しかし「女は結婚して、子供を産むことが一番の幸せだ」「男は仕事をして女は家事をするものだ」といった価値観は根強く、そうした考え方は様々な弊害を引き起こします。この巻ではしばしばメディアでも取り上げられる夫婦別姓、事実婚といったテーマをはじめ、家事の分担、出産や子育てなど、結婚や家庭におけるジェンダーに関する様々な事柄について身近な事例をもとに考えます。
	パパは女子高生だった！ (2019)	28分	女性から男性へ性別転換し、結婚、その後二人の子をもつ父親となった前田良(37)。非配偶者間人工授精(AID)で妻が産んだ子の出生届を役所に出すと、父親の名前を消すよう促された。納得できずに裁判を起こし、一審、二審で敗訴しながら、最高裁で逆転勝訴、日本で初めて戸籍上で実子と認めさせたパパと家族の記録。
	あした 咲く (2017)	36分	女性が輝く社会の実現に向けて様々な取り組みが進められてきました。しかし、現状は、職場や地域における女性の能力発揮のための環境整備や意識改革は必ずしも十分ではありません。また、ドメスティック・バイオレンスやハラスメントなどの女性に対する人権侵害も生じています。 この作品には、それぞれの立場ゆえの悩みや葛藤を抱えている生き方の異なる姉妹が登場し、姉妹の対立や、父との対話、そして、地域の人々とのふれあいを通して、別の視点や価値観に気づきます。自分で自分の生き方を選択し、すべての人が輝ける社会、その実現をめざすきっかけとなる教材です。
	あなたがあなたらしく生きるために～性的マイノリティと人権 (2015)	30分	性・セクシュアリティはとて多様です。しかし、それをしっかり理解している人はごくわずかでしょう。そのため、性的マイノリティの多くが、生きづらさを感じています。誰もがありのまま受け入れられ自分らしく生きたいと望んでいます。そんな社会を実現させるためには、まず相手を正しく理解し、偏見や差別をなくす必要があります。この教材は、性的マイノリティについて人権の視点で理解を深めるのがねらいです。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
子どもの人権	夕焼け (兵庫県人権啓発DVD) (2021)	35分	主人公・瑠依は、幼い弟の世話や家事に追われる生活にしんどさを感じつつも、「家族のことは家族であるのが当たり前」という思い込みから、気持ちを押殺して生活しているヤングケアラーです。しかし、小学校時代の担任であり元ケアラーの灯との交流によって、自分の状況や本当の気持ちについて見つめ直し、将来に向き合うための一歩を踏み出します。この作品では、お互いを気にかけて、人と人がつながっていくことが、ケアラーとその家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。ケアは他人事ではありません。だれもがケアする側にもケアされる側にもなります。年齢属性を問わず、共に助け合える『だれもが人権尊重される社会』の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。
	君が、いるから (2018)	33分	テーマは「子ども・若者の人権」です。子どもや若者は社会の希望であり、未来をつくる存在です。しかし、現実を顧みると、子どもや若者が被害者や加害者になる悲痛な事件が後を絶ちません。今この時も虐待やいじめなどにより人権を侵害され苦しんでいる子どもや若者が「すぐ隣り」にいることに、私たちは気づかなければなりません。この作品は、母親からの心理的虐待に悩む若者が主人公です。生き方を制限され、自分が愛されていると感じることができず自己肯定感の低い彼女も、コンビニエンスストアでの出来事をきっかけに少しずつ変わっていきます。彼女は、そこで出会う人々とのふれあいを通して、新たな価値観に気づいていきます。ともに心を通わせ、信頼することの先に「希望」と「幸せ」があることを奏の成長を通して描きます。
外国人の人権	サラーマット～あなたの言葉で～(2019)	36分	テーマはSNS時代における外国人の人権です。主人公・珠美は、新しく職場に来たフィリピン人のミランダに対し、様々な「違い」を「壁」だと捉え、面倒な存在だと感じてしまいます。しかし、自分とは異なる文化や考え方を持つミランダとの対立や交流を通して、珠美は新たな視点に気づかされ、「違い」は様々な問題解決の糸口になることも学んでいきます。珠美とミランダの姿を通して外国人は「受け入れてあげる存在」でも「労働力」でもなく、助け合うことができる対等な仲間であること。そして、SNSを傷つけるための道具としてではなく、人の心と心をつないでいくために利用する様子を描いています。「違い」は壁ではなく、自分自身を成長させ、地域を豊かにする源です。異なる文化の人たちを、共に未来をつくる新しい存在として尊重し、互いに高め合っていく。そんな多文化共生社会の実現をめざす内容となっています。
	外国人と人権～違いを認め、共に生きる～(2017)	33分	外国人に関する人権問題をドラマや解説で明らかにし、多様性を認め、人が人を大切にする人権尊重の社会をつくり上げるために何ができるかを考える教材です。外国人に対する偏見や差別をなくし、皆が住みよい社会を築くために私たちにどのようなことが問われているのか、考えてみましょう。
障害者の人権	障害のある人と人権～誰もが住みよい社会をつくるために～(2019)	32分	障害のある人もない人も誰もが住みよい社会をつくるためにはどうしたらよいのでしょうか？この作品では、障害のある人が直面する人権問題や心のバリアフリーの実現に向けた取組などを紹介し、「障害のある人と人権」について私たちに何ができるのかを考えていきます。 ＜取組紹介＞ ソニー・太陽株式会社 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本
	風の匂い(2016)	34分	「障害者差別解消法」では、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。社会の中にあるバリアは物理的な問題だけではなく、障がいのある人への差別意識や知識不足からも生まれています。私たち一人ひとりが意識を変えて、「バリア=壁」をなくしていかなければならないのです。この作品の二人の主人公のうち、一人には知的障がいがありますが、子どもの頃は共に遊び、共に学ぶ「大切な友だち」でした。しかし、大人になった二人を隔てる健常者と障がい者という壁。二人の成長と職場での人間模様を通して、社会的な課題でもある『合理的配慮』についても触れています。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
人権全般 その他	にんげん図鑑 ～人権問題と向き合うために～ (2020)	30分	マイリティをテーマ・題材に人間に寄り添う映像制作を続ける田中幸夫監督のドキュメンタリー映画とビデオ作品を再構成。部落、在日、ダウン症、ユニークフェイス、認知症、LGBTなど、あらゆる人権課題に対する向き合い方を、大人にも子どもにも分かりやすく提示する。
	すべての人々の幸せを願って (2015)	35分	世界には、性別や人種、肌の色の異なる人々、大人や子ども、障がいの有無など、一人ひとりが違いを持つ、たくさんの人たちが暮らしています。すべての人々が幸せに暮らせるように、私たち一人ひとりが相手の違いを認めつつ、同じ一人の人間として、相互に尊重し合うことの大切さを一緒に考えていきましょう。
	わたしたちが伝えたい、大切なこと (2017)	31分	全国中学生人権作文コンテスト入賞作品から(1)外国人問題、(2)障がい者スポーツ、(3)障がい者理解を題材とする3作品をアニメ映像化し、人権尊重思想の普及高揚と同時に同コンテストの周知を行うことを目的としています。
	桃香の自由帳 (2011)	36分	家族形態の変化や一人暮らし世帯の増加が進むなか、人々の地域などへの意識や関わり方が大きく変わり、互いにふれあい、支え合うことが少なくなっています。そのため、同じ地域に暮らしていても、名前さえ知らなかったり相手のことを誤解して排除したりするなど、私たちは気づかないうちに「人とのつながり」を自ら断ってしまうことがあります。このドラマは、どの地域でも起こりうる出来事に光を当てて、日常の何気ない言動を振り返ることで、現在を生きる私たちが見失いつつある、人と人が寄り添い、共に生きる温かな世界とは何かについて語りかけます。東日本大震災後、改めて見つめ直されている「人と人とのきずな」。私たち一人ひとりが地域社会を担う一員として、助け合い、支え合って生きる共生社会を創造していくためのドラマ教材です。
	ほんとの空 (2012)	36分	高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これら多くの人権課題に共通する根っこの部分は、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」です。誰もが他者の排除や差別がよくないことは理解しています。その一方で、私たちは自分の身近な人に関わる出来事には敏感に反応するけれど、それ以外のことには他人事のように感じたりします。また、私たちは、自分や家族の生活を守るために、あるいは誤解や偏見に気づかずに、他者を排除したり、傷つけたりしがちです。誤解や偏見に気づき人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと。全ての人権課題を自分に関わることとしてとらえ、日常の行動につなげてもらうための教材です。
	ヒーロー (2013)	34分	社会から孤立している人が増えてきて、孤独死などが大きな社会問題となっています。家族や地域、職場のつながりの希薄化による「無縁社会」と呼ばれる社会状況に対し、私たちに何ができるでしょうか。「無縁社会」の中で、地域で起こる身近な人権問題に対し、傍観者としてではなく、主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感してもらうためのドラマ教材です。
	家庭の中の人権 カラフル (2014)	31分	「人権問題」というと、難解で、政治や法律や一部の組織に関わる人だけに関係があるものだと思われがちです。しかし、「人権」の問題は、「人間」の問題。私たち一人ひとりが生きていく日々の中に存在します。気づかずにいると、知らず知らずのうちに他者の人権を侵害してしまうこともあります。そして人権に対する意識の基盤は、家庭の中で育まれていきます。このビデオでは、人生の巣立ちの時を迎えた子どもたちと両親との会話を通じて、家庭の中にある人権課題を取り上げました。一人ひとりが「人権」に対する意識と知識を高め、家庭内で話し合っきっかけとしてお役立てください。
	秋桜(コスモス)の咲く日 (2013)	34分	「違い」を認めないことによって、差別は始まるといえます。人はそれぞれ違うものなのに、違うというだけでその人を排除してしまう傾向が人間にはあります。違いを理解し、認め合うことが大切であることはもちろん、本当にすべての人の人権が尊重される社会とは、それぞれの違いを活かすことのできる社会だといえるのではないのでしょうか。この作品は、「目に見えにくい違い」の一つとして、発達障がいのある人の生きづらさや痛みを真摯に伝えるとともに、「違い」が生み出すプラスのエネルギーを美しく群生するコスモスの花々と重ね、「ともに生きることの喜び」を伝えるための教材です。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
人権全般 その他	ハンセン病と問題を知る ～元患者と家族の思い～ (2021)	35分	隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化し、国立ハンセン病資料館学芸員による解説とともに収録しています。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるためのDVDです。
	ハンセン病とは？ ～ハンセン病を正しく理解するために～(2014)	30分	ハンセン病を正しく理解するために兵庫県が製作した普及啓発DVD。ハンセン病についてわかりやすく解説するとともに、兵庫県出身のハンセン病回復者の方のお話を通じて学ぶことができます。
	・ハンセン病問題～過去からの証言、未来への提言 ・家族で考えるハンセン病 (2015)	56分 20分	この教材は、ハンセン病問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等の人権教育・啓発に携わる職員等が身に付けておくべきハンセン病問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を分かりやすく簡潔にまとめた「ハンセン病問題 ～過去からの証言、未来への提言～」(56分)と一般市民を対象とした、啓発現場においても使用できる「家族で考えるハンセン病」(20分)の2つの映像作品から成り立っています。
	イマジネーション 想う つながる 一步ふみだす (2014)	34分	あるラジオ番組のスタジオが舞台。パーソナリティーを務めるサヤカの元にはリスナーからの悩み相談が…。いじめ、同和問題、発達障がい、現代社会で悩むさまざまな人々が番組を軸に心を通わせ、明日へとつながる一步を見つけていくストーリー。ドラマと解説パートを交えて、現代の3つの人権問題を分かりやすく解説していく。 ・いじめをなくすのはアナタ(子どもの人権) ・「関わらないのが一番」それは本当？(同和問題) ・見えにくいから知ってほしい、発達障がいのこと(障がい者の人権)
	あなたの偏見、わたしの差別 ～人権に気づく旅～ (2012)	30分	人権という言葉はよく耳にしますが、自身の問題として考える機会は少ないのではないのでしょうか。しかし、少し視野を広げてみれば、身の回りにはさまざまな人権に関する問題や課題があるのです。本作では人権問題に興味を持つ若者たち4人に集まってもらいました。彼らが気づき、体験し、感じたことは、まさに人権に向き合うための旅とも言えます。4人の中で深まっていく議論とそれぞれの意見は、人権問題を考えるための確かな手がかりになるはずです。さあ、私たちも人権をめぐる旅に出かけましょう。
	今、地域社会と 職場の人権は！ (2011)	36分	本作品は、「増え続ける高齢者の問題」、「子育てする女性の問題」、「パワ・セク・ハラスメントの問題」、「同和問題」に視点をあて、だれもが地域と職場で、自分の持っている能力や個性を発揮し、生きがいを持って働ける環境づくりの大切さを問いかけていきます。そして、皆が「いきいきと安全で安心できる」社会への取り組みと、共に支え合う「共生社会」の実現をめざす学習教材用作品です。
	人権のヒント 地域編 ～「思い込み」から「思いやり」へ～ (2010)	25分	私たちは、一人ひとりが異なる個を生きています。人種、信条、性別、社会的身分、門地、障がいのある・なし・・・と、人それぞれ違っていています。ですから相手の立場に立つことはできません。ただ、立てないと自覚して、そこに近づこうと努力することはできます。それが想像力であり、思いを馳せる、思いやりということだと思ふのです。地域のなにげない暮らしの中から、「思いやり」を考えてみませんか。
企業向け	人権のヒント 職場編 ～気づきのためのエピソード集～ (2010)	22分	ごく普通の会社員の日常を描きながら、日頃は気づかない「人権のヒント」を探り、職場の中で私たちが考えるべき人権問題について提起する。「男女の役割」、「セクシャル ハラスメント」、「パワー ハラスメント」、「双方向のコミュニケーションがつくるもの」、「アサーティブな主張」、「障がい者との共生」、「出自で差別」、「ダイバーシティの尊重」などの内容。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
企業向け	それぞれの立場 それぞれのきもち ～職場のダイバーシティ と人権～ (2011)	32分	年代や経験、価値観の異なる仲間が、それぞれがどのような思いを持っているのかを描き、コミュニケーションの重要性やダイバーシティの考えに沿って、問題解決のヒントを示していきます。①働く女性たち(仕事と家庭の間で)、②上司と部下(思い込みが生むすれ違い)、③こころの健康と周囲の気づき(職場のメンタルヘルス)、④働き方と働きがい(仕事のモチベーション)、⑤仲間への思いやり(相手の気持ちを想像する)、⑥ユニバーサルデザインが教えてくれること(仲間の多様さを知る)
	メンタルヘルスと人権 ～あなたの心の声を聞いていますか～ (2009)	30分	今もどこかの職場で誰かがうつ病に陥っています。あなたの職場は大丈夫ですか？そして、あなた自身は？わたしは大丈夫、と言い切れますか？メンタルヘルス(心の健康)ケアの重要性を気づかせてくれるビデオです。活き活きと働ける職場づくりを実現するためのセルフケアと職場のラインケア、また家族の関わり方を考えます。
	自他尊重のコミュニケーションと職場の人権2 (相手の立場で考える) (2013)	23分	この教材では、職場のそれぞれ異なる立場の登場人物にスポットを当て、お互いを尊重するコミュニケーションの大切さを考えていきます。それぞれのエピソードでは、お互い悪意はないのにコミュニケーションの不全から職場環境が悪化する状況になります。自分も相手も大切にすることをコミュニケーションとはどんなものなのかを考えてみましょう。
	企業活動に人権的視点を～CSRで会社が変わる・社会が変わる～ (2015)	103分	各地で開催した「企業の社会的責任と人権セミナー」においてCSRと人権課題に積極的に取り組まれている企業に発表いただいた実践事例の中から、企業にとって関心の高いテーマに関する先駆的な5つの事例を取り上げ、企業の経営者や従業員などにおける実施の取組の様子や地域の人々の声を紹介していく。また、専門家による各事例の取組のポイントや、CSRと人権課題に関する解説を加え、企業活動に人権的視点を取り入れることによるメリット等も紹介している。
	コール&レスポンス ～ハラスメント～ (2017)	24分	ハラスメントを防ぐことは人権尊重の上で重要な課題です。しかし、相手の心を知ることはできません。ハラスメントを防ぐためには、十分なコミュニケーションをとると同時に、相手が言いにくい立場にいる場合は、相手の心を十分に推し量り、思いを聞いてみるのが大切です。また、ハラスメントを受けていると感じたら、たとえ小さくとも声をあげ、それを相手に伝えることも大切です。この作品では、職場におけるコミュニケーションの重要性を、「コール&レスポンス」というキーワードに仮託して考えていきます。
	企業と人権 ～職場からつくる 人権尊重社会～ (2017)	40分	近年、長時間労働による過労死、セクハラやパワハラなどのハラスメント、さらには様々な差別に関わる問題などが社会の注目を集めています。こうした「人権問題」への対応は、時として企業の価値に大きく関わります。そのため、人権尊重の考え方を積極的に企業方針に取り入れられたり、職場内で人権に関する研修を行う企業も増えてきています。 この作品は、企業向けに実施する研修会等で活用しやすいように、ハラスメント(パワハラ、セクハラ)、LGBT(性的少数者)、障がいのある人、外国人、えせ同和行為などをテーマにドラマや取材、解説も交えて構成しています。
	職場の日常から考える パワーハラスメント (2012)	28分	ある会社で起こる様々な出来事を一本のドラマで描き、多様化する「職場のパワーハラスメント」の問題に切り込んだ作品です。本ドラマでは、暴力や暴言といった従来型のパワハラは取り上げていません。むしろパワハラなのかそうでないのか線引きが難しい事例を中心に描いています。より働きやすい職場をつくるために、働く人がそれぞれの立場から、「職場のパワーハラスメント」をなくすためにどうすればいいのか、学んでいただける内容です。
	職場の人権 ～相手のきもちを考える ～ (2010)	27分	社員相談室・新人相談員の佐藤が、様々な職場で起こるトラブルや悩みに遭遇することによって、“相手のきもち”を考えるとはどういうことなのかを理解していく過程をドラマ仕立てで描く。この作品は、職場で身近に起こり得るパワハラやセクハラ、コミュニケーション不足が原因のトラブルを描くことで、そこにある意識のズレと問題点を提示していく。